



WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会報

第2号 June 20, 2007

- ジョークの心得三条: 1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。
 2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。
 3. ジョークは簡潔が至上です。

今月のエッセイ

イギリス人のジョークについて

—理解不能なおんどりの卵たち—

井谷 善恵



ロンドン下町の住民を Cockney というが、語源は cokenay で「おんどりの卵」(egg of cocks)。若いめんどりが生む不格好な卵という比喩がいつしかそう呼ばれるようになったとか。14世紀のチャオサーのカンタベリー物語にも cokenay が「軟弱な」という意味ですでに使われている。

でも何故、めんどりの卵とおんどりの卵が入れ替わったのだろうか？
 こんな風に、時にジョーク以上の理解不能なできごとで遭遇していた英国滞在の日々を思い出しつつ。

その1: ロンドンの地下鉄で “Elephant & Castle” (象と城) という駅がある。そこは中世 Castle 王国(カステラの語源にもなったスペイン中・北部)の王女が嫁いできた際に、イングラント皇太子との対面を前にして、王女が花嫁衣装に着替えた場所。

やがて *Infanta da Castile* (カステラ王国の王女) がうまく発音できないイロンドンっ子はなまってその場所を Elephant & Castle と呼ぶようになった。実家のカステラ国は怒ったに違いない。姫君が衣服を整えた神聖な場所がいつのまにか「象の城」にされてしまったのだから！

その2: 2002年の4月1日(エイプリル・フー

ル)のサン紙で「スーパーマーケットの Tesco が、whispering carrot (笛吹人参)の開発に成功し、販売中」と発表。正しい調理方法に従えば、人参の中にある穴がひゅーという音をたてると解説。

この新聞を見て多数の人が whispering carrot を求めて実際に Tesco まで買いに走ったとのこと。
その3: (すこし古い話ですが):

1957年の4月1日(エイプリル・フーカ)にBBC放送のTVニュース(ニュース!)で、「南スイスで今年のスパゲッティ豊作」のタイトルで、スイス人がスパゲッティの木からパスタを摘んで駕籠に入れている場面を放映。

ニュースを見た視聴者から「どうすればスパゲッティの木があのようになっただろうか?」との問い合わせ多数。

それに対するBBCの回答:「スパゲッティをトマトソースの缶に立てましょう」

これらすべて、ジョークではなく事実です！

今月のジョーク

A pessimist is a man who is
 never happy unless he is
 miserable.